

STOCKHOLDER COMMUNICATION

第17期 株主通信

2011年4月1日～2012年3月31日



Internet Marketing Solution



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「メールアプリケーションのエイジア」から、「eコマース売上UPソリューションを世界に提供するエイジアへ」。

これが、当社の目指す方向性です。

当社のお客様（企業クライアント様）は、なぜ当社のメールアプリケーションソフトを買ってくださるのか。それは、メールを送りたいからではなく、メールを活用して、顧客満足度を高めたり、売上をUPさせるためであると考えます。

そのお客様の真のニーズに、私たちの視点を完全にあわせ、当社の事業領域も、eコマースの売上をUPさせるソリューションの提供に拡大させていきます。

そして、「クライアントに満足を買ってもらいたい」という経営理念のもと培ってきたクライアント志向の考え方、技術力を武器に、有益なソリューションを世界に展開してまいります。

今後も、皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

Contents

株主の皆様へ	1
トップインタビュー	2
WEB CASクラウド導入事例	4
エイジアの事業Q&A	5
IRニュース	6
営業の概況	7
財務ハイライト	8
財務諸表	9

■ トップインタビュー

——当期（17期）を振り返って、どのような年でしたか。

当期は、私がエイジア代表取締役に就任して3期目にあたりますが、おかげさまで3期連続の増収・増益となりました。また当期売上高および当期純利益につきましても、当社設立以来、最高額を記録することができました。

——3期連続の増収・増益を達成された要因は。

一貫して、クラウドサービス^(※1)を強化してきたことが大きな要因です。クラウドサービスは、利益率が高く、売上継続性が高いストック型事業のため、パッケージ^(※2)販売に比べて安定収入が見込めるビジネスです。「クラウドサービスをはじめとした、ストック型事業^(※3)の収益で、固定費を賄える体制をつくる」という目標を掲げ、クラウド拡販に注力してまいりました。

この結果、14期は売上の約4割を占めていたストック型事業の売上が、17期では約6割となりました。今はまだ固定費全てを賄えるまでには至っておりませんが、順調に推移しています。

——今後のエイジアの方向性は。

当社を目指す方向性は、eコマース領域への事業拡大と、世界展開です。

eコマース分野は、現在当社が属するメール市場と比較して、市場規模が格段に大きく、さらなる成長が確実視されています。当社メールアプリケーションとの親和性も非常に高く、当社の経験や技術力、人的ネットワークが活かせる分野でもあります。

これまで当社は、メールアプリケーションの提供を通して、企業の売上向上・お客様満足度向上を支援してきましたが、今後は“メールアプリケーションのエイジア”から、“eコマース売上UPソリューションを世界に提供するエイジア”として、より広い領域で「売上を伸ばしたい」という企業のお役に立ちたいと考えています。



株式会社エイジア 代表取締役

美濃和男

(※1) クラウドサービス：インターネット経由でソフトウェアをサービスとして利用する形式。ユーザー企業はソフトウェアが稼働するIT環境の管理や、ライセンス等高額な初期投資等の負担なく、毎月の利用料を支払うことで安価に利用できる。

(※2) パッケージ：クライアント企業がソフトウェアのパッケージライセンスを購入し、自社のIT環境に導入して運用する形式。

(※3) ストック型事業：一定の収入が安定的に得られる事業。当社においては、クラウドサービスの利用料やシステム保守料がこれにあたる。

■ トップインタビュー

以上の方針を踏まえた活動の一つが、eコマース売上UPに貢献する新規アプリケーションの開発です。前期に当社は利益率の低い受託開発事業を思い切って縮小し、人員を開発部門へ配置転換して新規アプリケーション開発を推進してまいりました。その結果当期は、eコマース販促支援おねだりツール「おねだり上手」や、Twitterダイレクトメッセージー齐配信ツール「twiDM」の提供を開始することができました。今後も引き続き、新しいアプリケーションの開発に注力してまいります。

もう一つの活動は、海外展開です。現在当社は、前期から活動を始めた中国のみならず、ベトナム、タイなどの新興国においても、当社製品拡販の準備を進めております。

——当期行った主な取組みを教えてください。

2点ご紹介します。1つは、ブランドダイアログ社との業務資本提携です。

当社は、2011年8月、約1,200社のユーザー企業に営業支援／顧客管理システム「Knowledge Suite（ナレッジスイート）」を提供するブランドダイアログ社と業務資本提携を行い、同社に50,000千円出資いたしました。この結果、同11月に「Knowledge Suite」に当社メールアプリケーションが標準搭載され、ユーザー企業への提供が開始されました。

今般のブランドダイアログ社との業務資本提携は、BtoB（法人向けビジネス）市場の開拓を目的としています。

当社とブランドダイアログ社の共同サービスは、BtoB企業の営業活動を支援するソリューションです。一方、今後当社がeコマース市場において主要ターゲットとしているのは、BtoC（消費者向けビジネス）の企業です。

BtoB市場については、ブランドダイアログ社と協力体制を敷き、共同で活動を展開します。

もう一つは、海外展開の進捗についてです。当社は2011年4月に、ベトナムにおいて日本製品やサービスの販売促進支援などを行う、アジアビジネスインベストメント社に出資いたしま

した。同社は、日本法人の海外進出支援を行うブレインワークス社のグループ会社で、ベトナム最大規模のショッピングモールで富裕層向け日本製品販売ショップを運営しています。当社はそのECショップ運営およびメールマーケティングの支援を行うことにより、ベトナム現地調査、情報収集、テストマーケティングを実施する予定です。

2012年3月には、タイでシステム開発およびITコンサルティング事業を行うRnA International社と業務提携を行い、タイにおける当社システム「WEB CAS」の独占販売契約を締結いたしました。これにより、当社のタイ進出が決定いたしました。

中国市場における活動に関しては、2011年に中国最大の電信電話会社チャイナテレコムのSaaSサービスとして当社メール配信システムをご採用いただきました。当期以降においては、当該ルートにおける中国本格展開を目標に、システム保守技術の移植を実施するなどして、本格的な販売・運用体制の構築を進めております。

——来期（18期）の重点施策は。

「品質強化」、「クラウドサービスの強化」、「サービス部門の立ち上げ」の3点に力をいれてていきます。

まず、「品質強化」について説明します。本格的な海外展開に踏み出す前に、アプリケーション品質の再確認と強化に重点的に取り組む計画です。品質強化の専門チームを新設し、過去に開発したシステムの見直し・強化や、新規に開発するシステムのテスト強化を徹底して行い、海外展開に耐えうる品質を確保してまいります。

次は「クラウドサービスの強化」について説明します。本格的な海外展開などに伴うリスクに耐えうる収益力を確保するため、来期もクラウドサービスの強化を行います。具体的には、クラウドサービスの中でも、利用継続率の高いSaaS型^(*)4)の導入を支える技術コンサルティング要員の拡充を行うほか、広告宣伝の強化および販売パートナーの開拓に注力してまいります。

最後の「サービス部門の立ち上げ」は、当社の全く新しい試みとしてスタートします。

当社はこれまでアプリケーションシステムのみを提供してまいりましたが、今後はコンサルティングやシステムの運用代行等、システムを効果的に使う関連サービスの提供を開始することにより、アプリケーション自体の売上増大につなげていきたいと考えています。

——来期（18期）の業績予想は。

18期の第2四半期累計期間は、ただ今申し上げた「品質強化」に集中的に取り組むため、当期に比べ、売上、利益ともに減少する見通しです。通期においても、第2四半期累計期間の影響により、利益は減少する見込みです。また、当期決算において税務上の累積損失が一掃されるため、税負担が正常化されます。これにより、18期の当期純利益は、17期に比べて減少幅が大きくなる見込みです。（※詳しい予想数値は7ページをご覧ください）

株主の皆様におきましては、当社の中長期的な成長を見越した取組みへのご理解と、引き続きのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひいたします。

（※4）SaaS型：当社クラウドサービスの中でも、クライアント企業の要望に応じて、カスタマイズや他システムとの連携を可能とする、柔軟度の高い提供方式。

WEB CASクラウド導入事例ご紹介

GAGA★ ギャガ株式会社様

映画宣伝業務において重要な、マスコミ向け情報発信にWEB CASを活用

映画製作・配給事業を行うギャガ株式会社様は、2008年に当社メール配信システム「WEB CAS e-mail」を導入、その後も継続してご活用いただいている。

主に自社配給映画の宣伝にご活用いただいている、映画に関する情報を盛り込んだHTMLメールを、マスコミ関係者向けにタイムリーに配信されています。HTMLメールには、映画賞受賞のニュースやイベントレポートなどの話題が盛り込まれており、これらの情報を画像等とともにお伝えすることにより、視覚的に訴求効果の高い広報・PRを実現されています。

また同社では、取引先への年賀状を、WEB CASを活用したメール配信に切り替えられました。これにより、郵送コスト、宛名ラベル貼り付け等の事務コスト削減効果に加え、Webサイトへの誘導力強化といった効果もあげられています。

<WEB CASで配信しているマスコミ向けHTMLメール>



『アーティスト』
大ヒット公開中



『ジェーン・エア』
大ヒット公開中

© La Petite Reine - Studio 37 - La Classe Américaine - JD Prod - France 3 Cinéma - Jouror Productions - uFilm

© RUBY FILMS (JANE EYRE)
LTD./THE BRITISH
BROADCASTING CORPORATION 2011.

■ エイジアの事業Q&A

Q.

エイジアの事業について教えてください。

A.

エイジアは、インターネットを活用して売上をあげたり、顧客満足を高めたりすることを、ソフトウェアの提供を通じて支援する会社です。

具体的には、メールを介したお客様との関係強化を実現する、メールマーケティングシステム「WEB CAS(ウェブキャス)」シリーズの開発・販売をコアに、EC 売上支援ツールの制作やシステム開発、Web 制作等を行っています。

Q.

「WEB CAS」って何ですか？

A.

お客様一人ひとりに最適なメールが配信できる「メール配信システム」、お客様のご意見の収集・分析ができる「アンケートシステム」、スムーズな問い合わせ対応を実現する「メール問い合わせ管理システム」の3システムが連携し、お客様と企業の良好な関係を構築出来るソフトウェアシリーズです。

Q.

「WEB CAS」の強みはなんですか？

A.

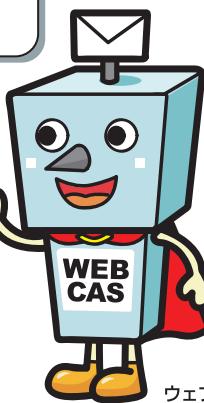
クライアント企業様のご要望や環境に合わせ、柔軟にシステム構築できる点です。現在人気があり高まっている「WEB CAS」クラウドサービスは、他社は対応しづらいカスタマイズや、お客様が既にお持ちの複数顧客データベースとつなげることができます。またサイト内行動履歴に応じてオススメ情報を提供する「レコメンドエンジン」や、アクセス解析システム等、各種システムとも連携可能で、効果的なマーケティング活動基盤として活用いただいております。

Q.

エイジアは今後どのような事業展開を考えていますか？

A.

国内のメールソフトウェア会社という現在のポジションから、eコマースの売上UPソリューションを世界に提供できる会社を目指します。具体的には、システムの提供のみならず、システムを効果的に活用するためのサービスの提供、オーダーメードのソフト開発・保守といったサービスソリューション、それらの組み合わせの海外への提供を行っていきます。将来的な売上構成比率は、アプリケーションソフト、関連サービス、海外展開の3つが均等になることを目指します。



ウェブキャスボ

エイジアIRサイトが新しくなりました！

<「個人投資家の皆様へ」コーナーで事業を解説>

The screenshot shows the 'Investor Relations' section of the AZIA website. It includes a main heading '投資家向け情報 INVESTOR RELATIONS', a sub-section 'ようこそ', and various informational boxes such as '個人投資家の皆様へ', 'エイジアの特徴と強み', 'エイジアの歴史', 'エイジアのサービス', '決算情報と予想数値', and '株主還元'. There are also sections for '最新資料' like '決算短信', '説明会資料', '有価証券報告書', and 'まとめダウンロード'.

<最新の決算情報がまとめて手に入るIR資料コーナー>

The screenshot shows the 'IR資料' section of the AZIA website. It features a grid of download links for various financial reports: '決算短信' (2012年3月期), '説明会資料' (2012年3月期), '有価証券報告書' (2012年3月期), and a general 'まとめダウンロード' section. Below this, there is a table for '2012年3月期' showing document sizes for each category.

エイジアの企業サイトリニューアルに伴い、投資家向け（IR）サイトが新しく生まれ変わりました。

一般的にはなじみの薄い「法人向けソフトウェア」商材を扱う当社ですが、個人投資家の皆様にできるだけ当社の事業、強みなどをご理解いただけるよう、会社紹介コンテンツを充実させました。

また、レイアウトを大幅に変更することで、期毎の決算短信、決算説明会資料など、投資判断に役立つ各種IR資料が探しやすくなりました。直近の業績や予想数値、株主還元など、株主様が気になる数値は、グラフで推移がイメージしやすくなっています。ぜひご覧ください。

IRメールマガジンにぜひご登録ください



エイジアIRニュースをタイムリーにお届けする、IRメールマガジンにぜひご登録ください。メールマガジンでは、エイジアの決算情報やIR動画配信、各種リリース、導入事例の公開等を、皆様にスピーディーにお知らせしています。IRサイトでご登録いただけます。（※パソコン用メールアドレスのみ登録可能です）

エイジアIRサイト <http://www.azia.jp/ir/>

■ 営業の概況

当期の経営成績について

当社は事業領域を拡大すべく、eコマース売上UPを実現する新規アプリケーションを開発するための体制づくりおよびその開発、利益率と売上継続性の高いクラウドサービスへのシフト、アプリケーションソフトの売上増強に寄与する関連サービスの提供に向け、自社展開の他、その分野に秀でた企業との連携を検討しております。

これらの結果、当期は、売上高717,149千円（前年同期比16.3%増）、営業利益93,558千円（前年同期比43.1%増）、経常利益99,109千円（前年同期比48.6%増）、当期純利益96,369千円（前年同期比45.6%増）となりました。売上高においては、当社設立以来最高額となりました。一方、利益においても、当期純利益が当社設立以来最高額となりました。

セグメント別の業績は、次の通りです。

①アプリケーション開発事業

主力のメールアプリケーションソフトの分野においては、クラウドサービスの販売強化に努めました。また、比較的大型の案件も順調に推移しました。

②受託開発事業

新規案件の受注業務は縮小したため、以前に当社が構築したシステムの保守業務や、デザイン制作を中心に展開しております。

◆ セグメント別売上高及び売上高総利益率

		2011年3月期(前期)		2012年3月期(当期)		増減	
		金額・利益率	構成比	金額・利益率	構成比	金額・利益率	構成比
アプリケーション開発事業	売上高(千円)	448,565	72.7%	629,734	87.8%	181,168	15.1
	売上高総利益率	74.9%	—	75.4%	—	0.5	—
受託開発事業	売上高(千円)	168,246	27.3%	87,415	12.2%	△80,831	△15.1
	売上高総利益率	39.4%	—	26.6%	—	△12.8	—
合 計	売上高(千円)	616,811	100.0%	717,149	100.0%	100,337	—
	売上高総利益率	65.2%	—	69.5%	—	4.3	—

◆ 来期の見通し

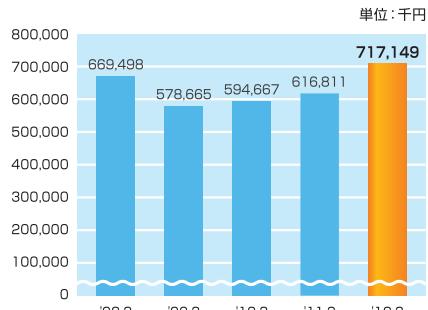
	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		一株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期累計期間	320	△9.5	5	△92.2	8	△87.6	1	△98.5	0	56
通 期	720	0.4	56	△40.1	60	△39.5	30	△68.9	16	91

左記のとおり、売上高合計は100,337千円増加し(前年比16.3%増)、利益率の高いアプリケーション開発事業の構成比率が高まった結果、売上高総利益率は4.3ポイント増と向上しました。

*%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率。

■ 財務ハイライト(非連結)

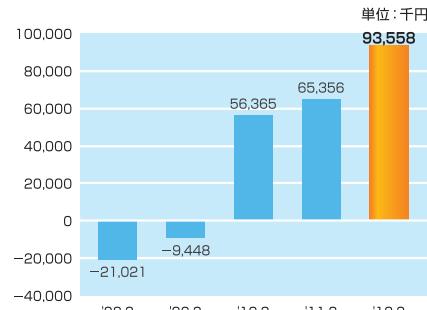
◆ 売上高



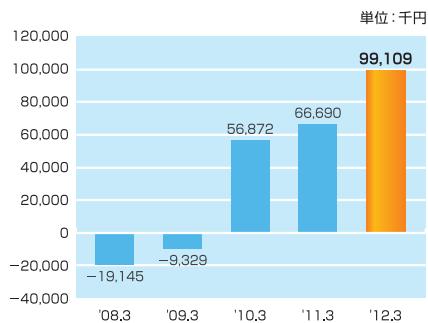
◆ 売上総利益



◆ 営業利益または営業損失



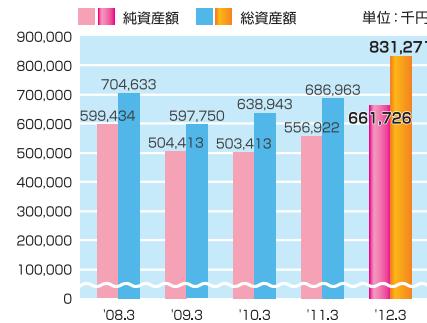
◆ 経常利益または経常損失



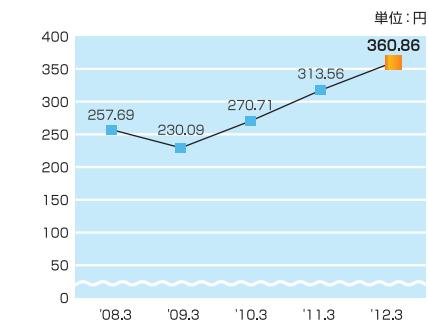
◆ 当期純利益または当期純損失



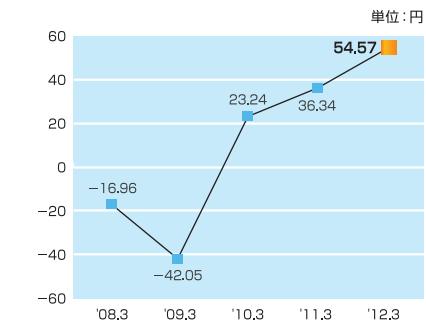
◆ 純資産額／総資産額



◆ 1株当たり純資産額



◆ 1株当たり当期純利益または当期純損失



*当社は、2012年3月期中に1株を200株に分割いたしました。1株当たり情報は、株式分割を反映し、適切に表示しております。

*財務ハイライトにつきましては、5期間の比較が可能な「非連結」のみ掲載しております。

■財務諸表(非連結／要旨)

◆貸借対照表

単位:千円

科目	期別 17期(当期) (2012年3月31日現在)	16期 (2011年3月31日現在)	15期 (2010年3月31日現在)	14期 (2009年3月31日現在)	13期 (2008年3月31日現在)
流動資産	708,520	585,784	550,488	535,314	559,019
現金及び預金	524,607	490,030	403,620	439,984	354,121
売上債権	154,028	73,590	128,622	77,441	182,557
棚卸資産	7,509	9,467	3,741	3,115	2,517
その他流動資産	22,375	12,696	14,503	14,773	19,823
固定資産	122,750	101,179	88,454	62,436	145,614
資産合計	831,271	686,963	638,943	597,750	704,633
流動負債	153,052	107,131	122,183	80,784	105,199
仕入債務	4,404	5,187	21,034	9,388	21,845
その他流動負債	148,648	101,944	101,149	71,396	83,353
固定負債	16,492	22,909	13,345	12,553	—
負債合計	169,544	130,041	135,529	93,337	105,199
純資産合計	661,726	556,922	503,413	504,413	599,434
負債純資産合計	831,271	686,963	638,943	597,750	704,633

◆損益計算書

単位:千円

科目	期別 17期(当期) 2011年4月1日～ 2012年3月31日	16期 2010年4月1日～ 2011年3月31日	15期 2009年4月1日～ 2010年3月31日	14期 2008年4月1日～ 2009年3月31日	13期 2007年4月1日～ 2008年3月31日
売上高	717,149	616,811	594,667	578,665	669,498
売上総利益	498,176	402,146	367,770	341,637	388,451
営業利益または営業損失	93,558	65,356	56,365	△9,448	△21,021
経常利益または経常損失	99,109	66,690	56,872	△9,329	△19,145
当期純利益または当期純損失	96,369	66,184	47,411	△97,569	△39,462

◆キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科目	期別 17期(当期) 2011年4月1日～ 2012年3月31日	16期 2010年4月1日～ 2011年3月31日	15期 2009年4月1日～ 2010年3月31日	14期 2008年4月1日～ 2009年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	83,816	120,285	49,078	88,377
投資活動によるキャッシュ・フロー	△51,259	△10,075	△31,159	19,096
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,325	△23,872	△54,375	△21,730
現金及び現金同等物の増減額	26,232	86,337	△36,456	85,743
現金及び現金同等物の期末残高	485,905	459,673	373,335	409,792

(注) 13期は連結財務諸表を作成しているため、
キャッシュ・フロー計算書は記載しておりません。

◆ 株主資本等変動計算書

単位:千円

科目	期別		前 期	当 期
			2010年4月1日~ 2011年3月31日	2011年4月1日~ 2012年3月31日
株主資本				
資本金				
当期首残高		322,420	322,420	
当期変動額				
当期変動額合計		—	—	
当期末残高		322,420	322,420	
資本剰余金				
資本準備金				
当期首残高		—	697	
当期変動額				
資本準備金の積立		697	—	
当期変動額合計		697	—	
当期末残高		697	697	
その他資本剰余金				
当期首残高		301,086	243,263	
当期変動額				
剰余金(その他資本剰余金)の配当		△6,973	—	
自己株式の処分		6	33	
資本準備金の積立		△697	—	
欠損墳補		△50,158	—	
当期変動額合計		△57,823	33	
当期末残高		243,263	243,297	
資本剰余金合計				
当期首残高		301,086	243,960	
当期変動額				
剰余金(その他資本剰余金)の配当		△6,973	—	
自己株式の処分		6	33	
欠損墳補		△50,158	—	
当期変動額合計		△57,125	33	
当期末残高		243,960	243,994	
利益剰余金				
利益準備金				
当期首残高		—	—	
当期変動額				
利益準備金の積立		—	881	
当期変動額合計		—	881	
当期末残高		—	881	
その他利益剰余金				
繰越利益剰余金				
当期首残高		△50,158	66,184	
当期変動額				
剰余金の配当		—	△8,810	
利益準備金の積立		—	△881	
当期純利益		66,184	96,369	
欠損墳補		50,158	—	
当期変動額合計		116,342	86,678	
当期末残高		66,184	152,863	
利益剰余金合計				
当期首残高		△50,158	66,184	
当期変動額				
剰余金の配当		—	△8,810	

科目	期別		前 期	当 期
			2010年4月1日~ 2011年3月31日	2011年4月1日~ 2012年3月31日
当期純利益				
			66,184	96,369
欠損墳補			50,158	—
当期変動額合計			116,342	87,559
当期末残高			66,184	153,744
自己株式				
当期首残高			△75,467	△92,623
当期変動額				
自己株式の取得			△17,550	—
自己株式の処分			394	1,970
当期変動額合計			△17,155	1,970
当期末残高			△92,623	△90,653
株主資本合計				
当期首残高			497,881	539,942
当期変動額				
剰余金(その他資本剰余金)の配当			△6,973	—
剰余金の配当			—	△8,810
当期純利益			66,184	96,369
自己株式の取得			△17,550	—
自己株式の処分			400	2,004
当期変動額合計			42,061	89,563
当期末残高			539,942	629,506
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金				
当期首残高			5,532	12,546
当期変動額				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			7,014	△1,885
当期変動額合計			7,014	△1,885
当期末残高			12,546	10,660
評価・換算差額等合計				
当期首残高			5,532	12,546
当期変動額				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			7,014	△1,885
当期変動額合計			7,014	△1,885
当期末残高			12,546	10,660
新株予約権				
当期首残高			—	4,433
当期変動額				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			4,433	17,126
当期変動額合計			4,433	17,126
当期末残高			4,433	21,559
純資産合計				
当期首残高			503,413	556,922
当期変動額				
剰余金(その他資本剰余金)の配当			△6,973	—
剰余金の配当			—	△8,810
当期純利益			66,184	96,369
自己株式の取得			△17,550	—
自己株式の処分			400	2,004
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			11,447	15,240
当期変動額合計			53,508	104,804
当期末残高			556,922	661,726

Corporate Profile & Investors Information

■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
江藤 晃	272,800	15.37
西田 徹	59,200	3.33
日本証券金融株式会社	53,000	2.98
北村 秀一	37,000	2.08
坂本 裕弘	32,800	1.84
藤井 芳安	22,000	1.24
エイジア従業員持株会	20,900	1.17
株式会社SBI証券	18,900	1.06
山野 篤史	18,000	1.01
井上 修二	17,600	0.99

(注) 1.当社は、自己株式を552,200株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2.持株比率は自己株式(552,200株)を控除して計算しております。

■ 株式の状況 (2012年3月末現在)

発行可能株式総数	普通株式	9,252,000株
発行済株式の総数	普通株式	2,326,200株
株主数		1,663名

■ 株主メモ

証券番号 2352
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 毎年3月31日
公告方法 電子公告の方法により、当社ホームページアドレス(<http://www.azia.jp/>)に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

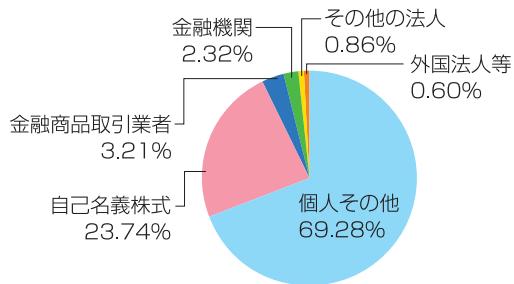
郵便物送付先 〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 0120-232-711(フリーダイヤル)

株式に関する各種のお手続きについて

- 各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

◆ 所有株数分布状況



■ 会社概要 (2012年3月末現在)

社名	株式会社エイジア
代表取締役	美濃 和男(みの かずお)
役員	専務取締役 中西 康治 取締役 北村 秀一 取締役 長山 裕一 常勤監査役 佐々木 俊夫 監査役 上野 周雄 監査役 藤本 真吾
従業員数	45名
設立	1995年4月
資本金	3億2,242万円
証券番号	2352(東京証券取引所マザーズ市場上場)
所在地	〒141-0031 東京都品川区西五反田七丁目21番1号 第5TOCビル 9階 TEL: 03-6672-6788 FAX: 03-6672-6805 所属団体 MIJSコンソーシアム ECAA(E-Commerce Asia Association) 取引銀行 三菱東京UFJ銀行大井支店 みずほ銀行品川支店 事業内容 CRMソフト「WEB CAS」シリーズの企画・開発・販売、ウェブサイト・基幹業務システムの受託開発、ウェブサイトの企画・制作 ホームページ http://www.azia.jp/ e-mail azia_ir@azia.jp



株式会社 エイジア <http://www.azia.jp/>